

WEBGUARDIAN V4.1.00 リリースノート

WEBGUARDIAN V4.1.00 では、次の機能追加／機能改善および既知の問題に対する修正をおこないました。

1. 機能追加／機能改善

WEBGUARDIAN V4.1.00 へのバージョンアップにおいて、以下の機能を追加しました。

(1) マイナンバー対応

個人情報検査にマイナンバー検出機能を追加しました。チェックデジットの検査を実行しているため、マイナンバーとして有効な数字だけを抽出することが可能です。

また、外部送信ログからマイナンバーを検索することも可能です。

- 管理サーバー利用の手引き『3-4-1-1 規制ルール』 - 「送信データ」、『3-4-2-1 ログ閲覧』 - 【外部送信ログ】

(2) SSL 検査機能

SSL で暗号化されたウェブページへの送信情報を閲覧することができるようになりました。

従来の HTTP 通信に加え、HTTPS 通信も制御できるので、社内からの情報漏えいを制御できます。また、SSL 暗号化されたウェブページに対して、添付ファイルのアップロード時における検査も可能です。

- 管理サーバー利用の手引き『3-4-3-5 SSL デコード設定』
- 検査サーバー利用の手引き『2-6 SSL デコード機能』、『5-5 SSL デコード設定』

(3) プライバシー情報保護機能

WEBGUARDIAN に保存されているデータについて、管理画面を通して閲覧できないようにすることが可能になりました。

SSL 検査機能により、ユーザーのログイン ID やパスワードといった個人情報を管理者が不用意に閲覧できないように、指定条件でデータをマスクすることができます。

- 管理サーバー利用の手引き『3-4-3-1 基本設定』 - 「プライバシー情報保護」

(4) Kerberos 認証によるシングルサインオン機能

シングルサインオン機能について、従来までの NTLM 認証に加えて、kerberos 認証に対応しました。

- 管理サーバー利用の手引き『3-4-3-2 ユーザー認証設定』 - 「シングルサインオン (Kerberos 認証) 設定」
- 検査サーバー利用の手引き『2-3 シングルサインオン(Kerberos 認証) 機能』、
『5-3 ユーザー認証設定』 - 「(5) シングルサインオン(Kerberos 認証) 設定」

(5) サービス設定機能の改善

ウェブメールや SNS、検索エンジンの各種サービスごとの利用状況を確認できるサービス設定機能を改善し、新規に以下のサービスへ対応しました。

- ・ウェブメール … Outlook.com
- ・SNS … GREE のチャット、コミュニティ、トピック
- ・検索エンジン … Bing

- 管理サーバー利用の手引き『3-4-2-2 サービス利用状況』、『3-4-3-4 サービス設定』

2. 修正

WEBGUARDIAN V4.1.00 へのバージョンアップにおいて、以下の不具合を修正しました。

(1) Ver 4.0.00 にバージョンアップ後、Ver 3.7.00 以前のライセンスキーを使用するとログ閲覧ができない

WEBGUARDIAN Ver 4.0.00 にバージョンアップ後、Ver 3.7.00 以前のライセンスキーをそのまま使用するとログ閲覧画面の 2 ページ目以降が「***」でマスクされ閲覧できません。

(2) バージョンアップ時に管理画面への接続ポート番号の設定が引き継がれない

httpd.conf にて管理画面接続ポートをデフォルト値から変更していた場合、WEBGUARDIAN Ver 3.7.00 以降のバージョンから WEBGUARDIAN Ver 4.0.00 へバージョンアップを実施すると、ポート番号の設定が引き継がれず、デフォルト値に設定されます。

(3) 特定のバージョンの設定をリストアすると管理画面が起動しない

WEBGUARDIAN Ver 3.7.00 以降のバージョンに、WEBGUARDIAN Ver 3.6.00 以前のバージョンの設定をリストアした場合、httpd.conf の値が上書きされ、管理画面が起動できなくなります。

3. システム要件

WEBGUARDIAN V4.1.00 を利用するには、以下の要件を満たしたハードウェア／ソフトウェアが必要となります。

【サーバ】

OS	<ul style="list-style-type: none"> •RedHat Enterprise Linux Version 5 ※Red Hat Enterprise Linux Desktop は未対応 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 ed、tcl、compat-db(32bit)、compat-libstdc++-33(32bit)、mt-st、at •RedHat Enterprise Linux Version 6 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 compat-db(32bit)、compat-expat1(32bit)、compat-libstdc++-33(32bit)、cyrus-sasl-lib(32bit)、libuuid(32bit)、mt-st、ncurses-libs(32bit)、tcl、at、krb5-libs(32bit) •RedHat Enterprise Linux Version 7 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 compat-db(32bit)、compat-db-headers、nss-softokn-freebl(32bit)、glibc(32bit)、libstdc++(32bit)、libgcc(32bit)、expat(32bit)、libdb(32bit)、libuuid(32bit)、ncurses-libs(32bit)、krb5-libs(32bit)、mt-st、tcl、at
CPU	上記 OS が動作する IA-32(Pentium 以上)、Intel64 プロセッサ (Itanium2 は非対応)
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none"> •管理サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:1GB •検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB •管理サーバー+検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:2GB <p>※システム稼働後は各種データが出力／保管されますので、運用を考慮した空き容量を用意してください。</p>
仮想環境	上記対応 OS の動作を保証している仮想環境

【管理用クライアント】

OS	Windows Vista、Windows 7、Windows 8 / 8.1 update、Windows 10
----	-----------------------------------------------------------

ウェブブラウザ	上記 OS で稼働している Internet Explorer 7.0、8.0、9.0、10.0、11.0、Microsoft Edge
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

以上